

1. 申請港概要

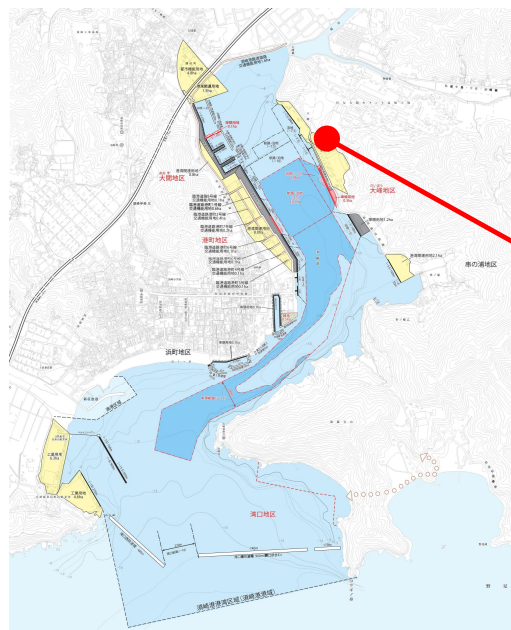
- 港湾管理者 高知県
- 担当部署 高知県土木部
港湾・海岸課
- 地元自治体 須崎市
- 須崎港は、土佐湾のほぼ中央に位置し、リアス式海岸の地形を生かした天然の良港として、また、セメント、石灰石の積出港として発展してきました。

背後には日本有数の石灰石の産出地である鳥形山鉱山を有しており、産出した石灰石は湾口部の栈橋から国内外に搬出するなど、地場産業を支える重要な役割を果たしています。

令和7年9月に作成された須崎港港湾脱炭素化推進計画に基づき、リサイクル燃料(バイオマス・廃棄物等)への代替の取組が進められています。



■ 位置図 (港湾計画図)



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○: 実績
☆: 計画

- セメント企業、廃液のリサイクル企業が立地しており、セメント代替原料及び代替熱エネルギーとして、間伐材や廃棄物の受け入れを行って参りました。近年では、約10.1万トン/年が移入されており、脱炭素化に向けて、石炭代替となるバイオマス・廃棄物エネルギーの利用を進めています。近年の取組として、令和6年から関東の再生資源燃料を高知新港経由のコンテナ海上輸送を不定期便として開始し、令和8年には高知新港初の国内定期航路の就航に繋がっています。

- セメント企業は、災害廃棄物の処理の協力に関し、高知県及び須崎市を含む13の地方自治体と各種協定を締結し、災害時における早期の復旧・復興のための体制を整えています。また、災害時に発生する災害廃棄物の受入れも積極的に行っており、平成30年西日本豪雨などの災害廃棄物を受け入れています。

☆ 港湾計画に基づく、船舶大型化に対応した岸壁(水深13m)を整備することで、セメント輸送及び循環資源等の受入れ拡大を図り、物流の効率化と広域的な資源循環を促進し、日本全体の循環経済(サーキュラーエコノミー)の形成・推進に貢献して参ります。

3. その他



セメント企業
リサイクル企業

岸壁名	岸壁(-9m)
取扱貨物	セメント(輸出・移出) 廃棄物(移入)

岸壁名	岸壁(-7.5m)ドルフィン×2
取扱貨物	石灰石(移入)、石炭(輸入) セメント(移出)、廃棄物(移入)

岸壁名	岸壁(-7.5m)
取扱貨物	石灰石(移入) 廃棄物(移入) 非金属鉱物(移入)

須崎港後背地に立地するセメント企業、リサイクル関連企業